

コロナ禍の訪問看護

一人ひとりに直接関わる訪問の現場から

訪問看護ステーション 看護師 河島 早希



訪問看護ステーションのメンバー

訪問看護にも新型コロナ

ナ感染拡大の影響はでて
います。不安の声や、中には訪
問看護の休止を希望され
る利用者様もいらっしや
います。休止の間、最低
週に一回電話で確認させ
ていただいています。

訪問時には利用者様や
ご家族に不織布マスクの
着用をお願いしています。

緊急事態宣言によりご
家族が在宅勤務をされて
いる場合があります。普
段ご家族にお目にかかる

機会が少ない中、お話を
できる機会となりケアを見
ていただけるという良い
面もありました。ご家族
からも「ケアを見ること
ができてよかった」「話が
できて良かった」等の声
をいただいたりします。

不安な声と暗いニュー
スが、落ち込みやす
い中、少しでも楽しく安
心して過ごして頂けるよ
うな関わりを心掛けてい

ます。一人ひとりに直接
関わり、把握できる訪問
看護だからこそ出来るこ
とを大切に、今の状況
に立ち向かいたいです。

いました。
後輩に伝えたいことと
して、「ちあきは他の事
業所で断られた患者を受
けいれている」「利用者
・患者の人權を尊重し、
誰にでも平等に医療・介
護を提供する職場」「無
料低額診療もやっってい
る」「金銭面や社会背景
など、その人のことを受

け入れていくことから始
めよう」「政治や社会に
も目を向けていくことが
必要」など、民医連で働
く職員としての思いが挙
がりました。

研修「後輩に伝えたい尾張健友会」 入職10年目の職員が 思いを共有しました

1月18日、尾張健友会
グループ入職10年目の職
員を対象に研修を開催し
ました。

後半はグループに分か
れ、①尾張健友会で働い
て良かったと思う点②こ
れまで続けられた理由③
後輩に伝えたい尾張健友
会というテーマで話し合

「困った時にはいつで
もちあきへ」と地域の方
に言っていただけけるよ
うな日々の実践を、今後入
職してくる後輩たちにぜ
ひ語り伝えていってもら
いたいと思います。

職員育成委員 三宅桂子



職員育成委員 三宅桂子

在宅勤務の思わぬ効果

緊急速報宣言によりご
家族が在宅勤務をされて
いる場合があります。普
段ご家族にお目にかかる

訪問看護は看護師が
訪問し、訪問診療では
医師が同行します。訪
問診療は月に一回が基
本です。

ことも見えてきました。
退院に向けて、病棟
看護師が、入院中の様
子や指導内容など、退
院後の生活に関わる情
報を訪問看護師と共有
します。情報共有の場
である退院前カンファ
レンスがあることで、
退院後も継続した医療
・看護が提供出来るの
だと再認識しました。

患者さんが安心して
在宅へ復帰するために
は、病棟看護師の退院
の準備だけでなく、
フォローしていく外来
・訪問看護師との連携
が必要であることを知
り、良い経験になりま
した。

「困った時にはいつで
もちあきへ」と地域の方
に言っていただけけるよ
うな日々の実践を、今後入
職してくる後輩たちにぜ
ひ語り伝えていってもら
いたいと思います。

職員育成委員 三宅桂子

コロナ禍により、昨年に続き今年度も
健友ネット集会の開催を断念せざるを得
ませんでした。
それでも1年間の職員の取り組みを発
表・交流できる場を作ることができない
待ちしています。

か検討し、「職員学術運動交流会」の名
称のもと院内ページを使った活動報告の
場を作りました。一部を紙面を通じて紹
介します。皆さんのご意見・ご感想をお
待ちしています。

職員学術運動 交流会から①

退院後を見ずえて訪問に同行

病院内では見えなかつたもの

千秋病院B3病棟 看護師 川田 貴美子

B3病棟は、地域包
括ケア病棟として在宅
・施設に向けて退院を

支援する役割を担って
います。しかし私たちが退院
後の患者さんとお会い
することはほとんどな
く、在宅患者さんの生
活を知る機会がありま
せん。

訪問先では色々なお
話を聞きました。患者
さんのご家族は「医師
や看護師が来てくれる
事があるがたい」と話
されました。高齢で通
院が困難な方には、医
療者が訪問することで
継続した医療・看護の
提供が出来、患者さん
やご家族の安心につな
がっていると感じまし
た。

私たち病棟看護師が
退院支援を行うにあた
り病棟で取り組むべき

1月4日より1ヶ月
間、総合大雄会病院麻
酔科にて研修を行って
きました。麻酔科とい
えば「手術の時に患者
さんを眠らせている
科」というイメージを
持つ方が多いと思いま
す。

全身麻酔を受けてい
る状態であれば自発的
な呼吸も止まり、血圧
も低下します。手術の
内容によっては出血が
大量に起こる事もある
でしょう。いわば身体



そこで退院した患者
護に同行しました。

「蘇生の知識、技術」
は一生モノ

1年目研修医 伊丹 慶輔

が一時的に死に近い状
態になるため、対応も
迅速かつ的確に行わ
なければなりません。
実際に麻酔科を回っ
て感じたことは、麻酔
科医というものは「麻
酔をかけるプロ」であ
ると同時に「蘇生のプ
ロ」でもあるというこ
とです。
意識が無くなった、
呼吸が止まった、出血
して血圧が急激に下
がった等の場面は、手
術でなくとも病棟でも
当然起こりうるもので
す。今回麻酔科で学ん
できた「蘇生の知識、
技術」は一生モノであ
ると感じています。

「蘇生の知識、
技術」は一生モノであ
ると感じています。

「蘇生の知識、
技術」は一生モノであ
ると感じています。